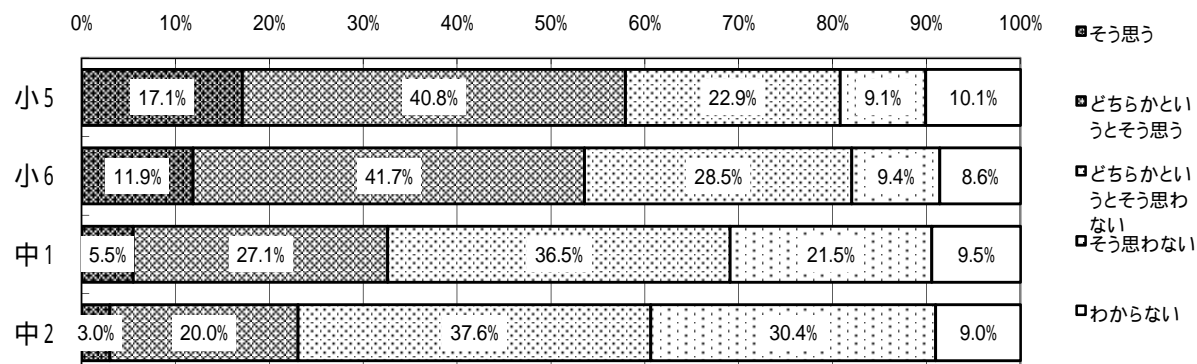


### (3) 各設問の結果・分析の概要

#### 1 勉強は好きですか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
そう思う	17.1%	11.9%	5.5%	3.0%
どちらかというと思う	40.8%	41.7%	27.1%	20.0%
どちらかというと思わない	22.9%	28.5%	36.5%	37.6%
そう思わない	9.1%	9.4%	21.5%	30.4%
わからない	10.1%	8.6%	9.5%	9.0%



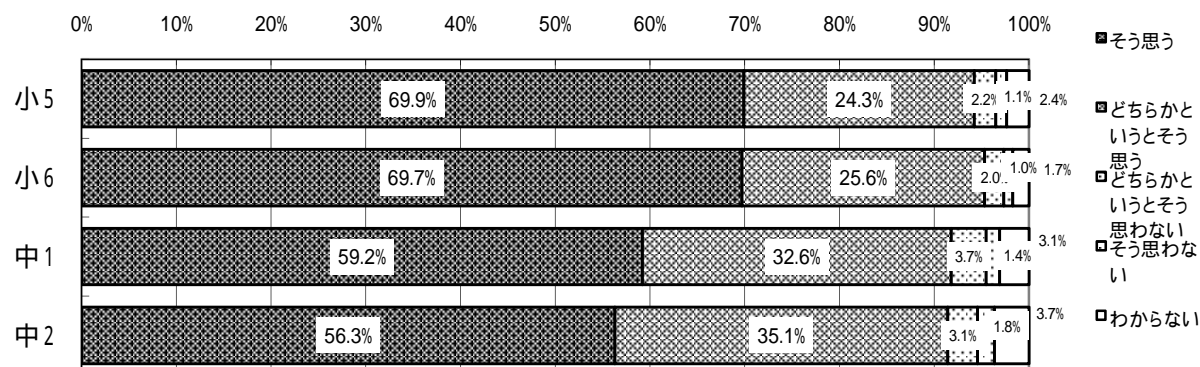
「勉強好き」の割合は3年連続増加傾向である。

「そう思う」「どちらかというと思う」を含めると、勉強が好きな児童(小5・小6)は5～6割程度、生徒(中1・中2)は2～3割程度である。昨年度と比較して、中2は同程度の割合であるが、小5、小6、中1、の3学年は増加しており、特に中1は4％増加している。一方、「そう思わない」と答えている児童生徒は1～3割程度いるが、昨年度に比べて、すべての学年でその割合は減少している。

この結果は、児童生徒に学習意欲を高める指導を行ってきた成果があらわれているものであり、今後も、一人一人に基礎的な知識・技能が身に付き、思考力・判断力・表現力が育つよう、きめ細かな指導を充実させることが必要である。

#### 2 勉強は大切だと思いますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
そう思う	69.9%	69.7%	59.2%	56.3%
どちらかというと思う	24.3%	25.6%	32.6%	35.1%
どちらかというと思わない	2.2%	2.0%	3.7%	3.1%
そう思わない	1.1%	1.0%	1.4%	1.8%
わからない	2.4%	1.7%	3.1%	3.7%



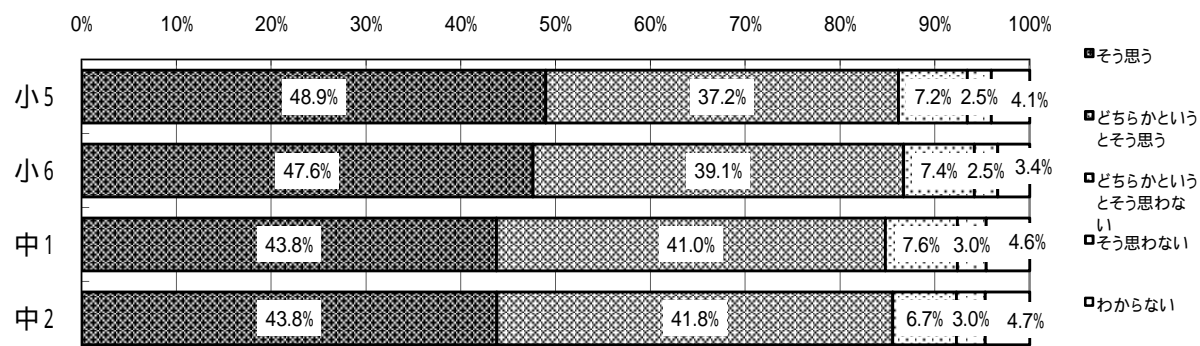
9割以上の児童生徒が「勉強は大切である」という意識をもっている。

「そう思う」「どちらかというと思う」を含めると、4学年ともに児童生徒の9割以上が勉強は大切であるととらえている。また、昨年度と比べて、「そう思わない」「わからない」ととらえる児童生徒の割合は、小6は同程度の割合であるが、小5、中1、中2の3学年は0.5％程度減少している。

この結果は、勉強することの意義を実感できるような指導の成果があらわれているものである。今後も、自分の生き方や進路等のかかわりから勉強していくことの大切さを深く見つめることができるように指導するとともに、

### 3 努力して勉強しなければいけないと思いますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
そう思う	48.9%	47.6%	43.8%	43.8%
どちらかというと思う	37.2%	39.1%	41.0%	41.8%
どちらかというと思わない	7.2%	7.4%	7.6%	6.7%
そう思わない	2.5%	2.5%	3.0%	3.0%
わからない	4.1%	3.4%	4.6%	4.7%



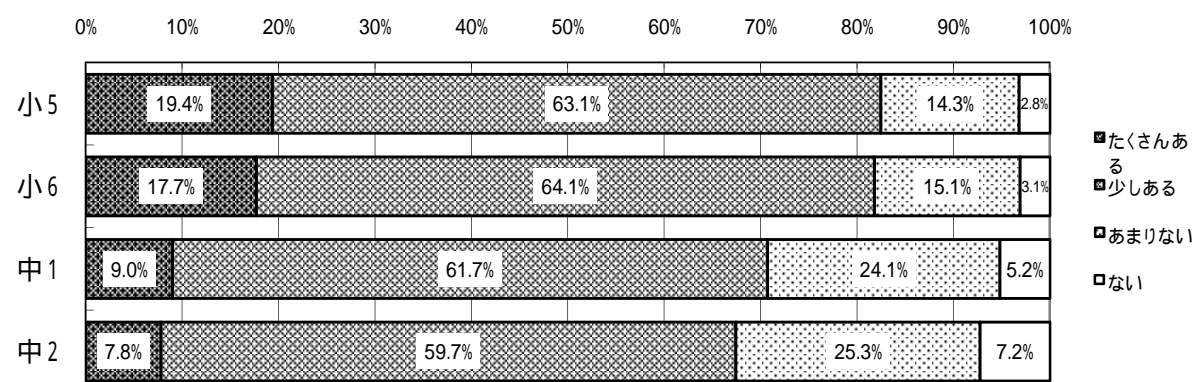
8割以上の児童生徒が「努力して勉強しなければいけない」とっており、昨年度より増加傾向である。

「そう思う」「どちらかというと思う」を含めると、努力して勉強しなければいけないと考える児童生徒の割合は、どの学年も8割以上である。昨年度と比べて、すべての学年でその割合は1～3%増加しており、「努力して勉強しなければいけない」という意識が高まっている。また、「そう思わない」と答える児童生徒の割合もすべての学年で減少している。

今後も、一人一人の児童生徒が学ぶ目的や意義をより明確にもち、自ら学習を進めていくことについての指導を一層充実することが必要である。

### 4 自分から進んで勉強しようとする気持ち(意欲)がありますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
たくさんある	19.4%	17.7%	9.0%	7.8%
少しある	63.1%	64.1%	61.7%	59.7%
あまりない	14.3%	15.1%	24.1%	25.3%
ない	3.2%	3.1%	5.2%	7.2%



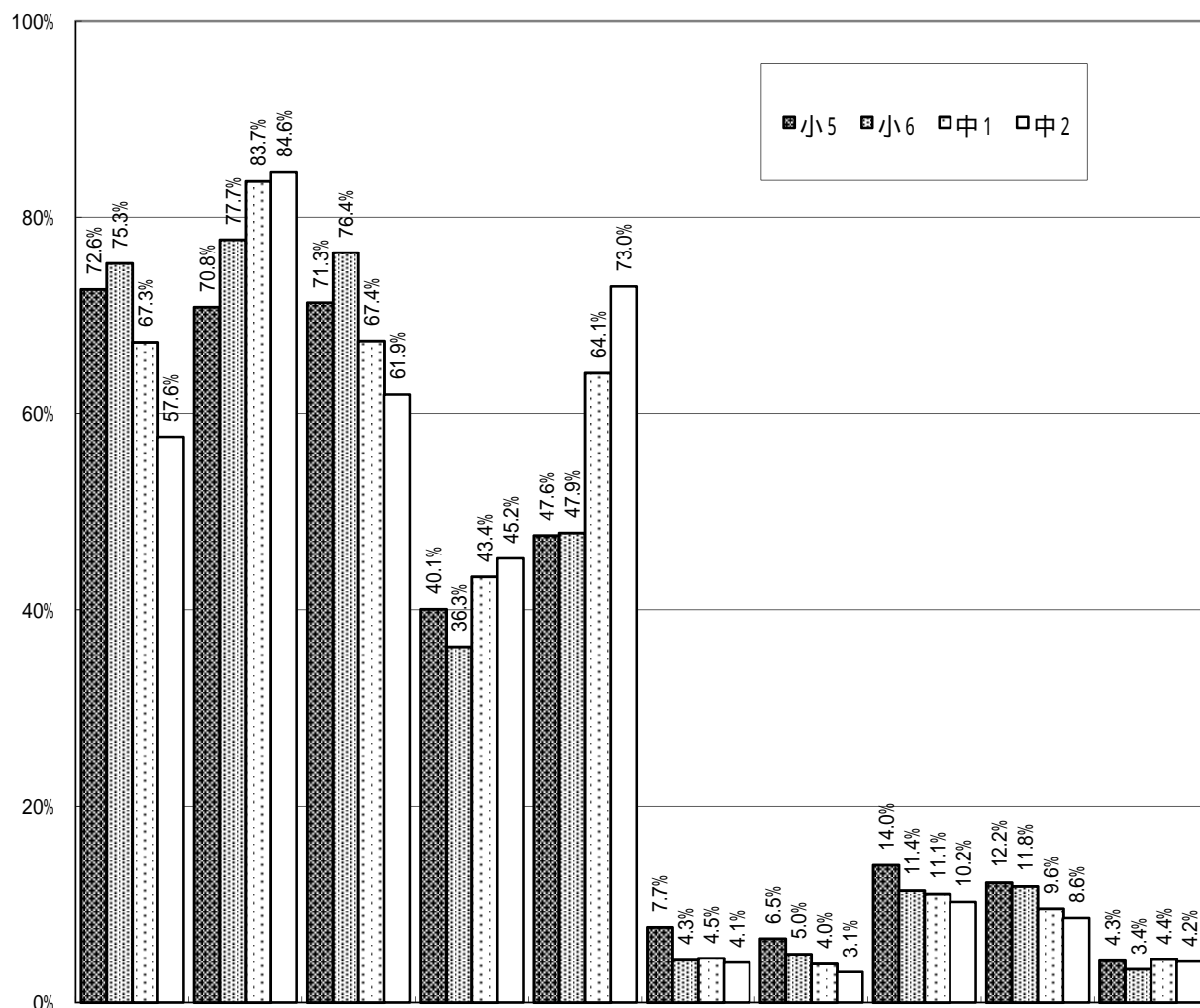
8割の児童、7割の生徒が学ぶ意欲をもっている。学ぶ意欲のある割合は、昨年度より増加傾向にある。

学ぶ意欲が、「たくさんある」「少しある」を含めると、自分から進んで勉強しようとする気持ち(意欲)がある児童(小5・小6)の割合は、8割を上回っており、生徒(中1・中2)は、7割程度である。昨年度と比べると、すべての学年において0.5%程度増加している。また、学ぶ意欲が「ない」と答えた児童生徒の割合は、各学年とも昨年度とほぼ同程度である。

今後も、児童生徒主体の教育活動を一層充実させ、「勉強がわかる・できる」「自分が伸びた・成長できた」といった学ぶ喜びや充実感、達成感を味わうことができる指導を充実させ、学ぶ意欲をさらに高めていくことが必要である。

## 5 何のために勉強すると思いますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
新しい知識や考え方などを学ぶため	72.6%	75.3%	67.3%	57.6%
希望する職業につくなど将来の夢をかなえるため	70.8%	77.7%	83.7%	84.6%
将来、世の中の役に立つため	71.3%	76.4%	67.4%	61.9%
よい成績をとるため	40.1%	36.3%	43.4%	45.2%
受験に合格するため	47.6%	47.9%	64.1%	73.0%
親や先生にほめてもらうため	7.7%	4.3%	4.5%	4.1%
友だちに認めてもらうため	6.5%	5.0%	4.0%	3.1%
友だちに負けないため	14.0%	11.4%	11.1%	10.2%
その他の理由のため	12.2%	11.8%	9.6%	8.6%
わからない	4.3%	3.4%	4.4%	4.2%



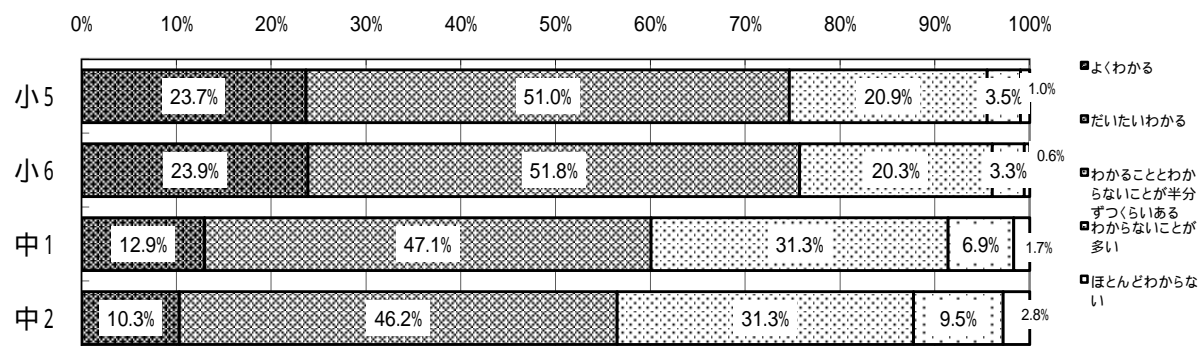
児童の7割以上、生徒の8割以上が、「将来の夢をかなえるため」を学ぶ意義ととらえている。

「希望する職業につくなど将来の夢をかなえるため」を選択した児童(小5・小6)は、7割を上回り、生徒(中1・中2)は8割を上回る。昨年度と比べると、小5は同程度の割合であるが、小6、中1、中2の3学年は1～3%程度増加している。「受験に合格するため」を学ぶ意義としている割合は、中学生になると急激に増え、中2では7割を上回る。全体として、自己の夢や進路の実現に向けて勉強しようとする意識をもっていると考えられる。

「新しい知識や考え方などを学ぶため」「将来、世の中の役に立つため」を学ぶ意義としている児童は7割程度、生徒は6割程度であるが、学年が進むにつれて減少している。ただし、「将来、世の中の役に立つため」を選択した児童生徒が、小6、中1、中2において昨年度と比べて1～3%程度増加しているため、今後とも、社会の形成者としての自覚を深めるような指導の充実を大切にしたい。また、自己実現など、その他の観点からも学ぶ意義について考えることができるよう指導することが必要である。

## 6 学校の授業がどの程度わかりますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
よくわかる	23.7%	23.9%	12.9%	10.3%
だいたいわかる	51.0%	51.8%	47.1%	46.2%
わかることとわからないことが半分ずつくらいある	20.9%	20.3%	31.3%	31.3%
わからないことが多い	3.5%	3.3%	6.9%	9.5%
ほとんどわからない	1.0%	0.6%	1.7%	2.8%



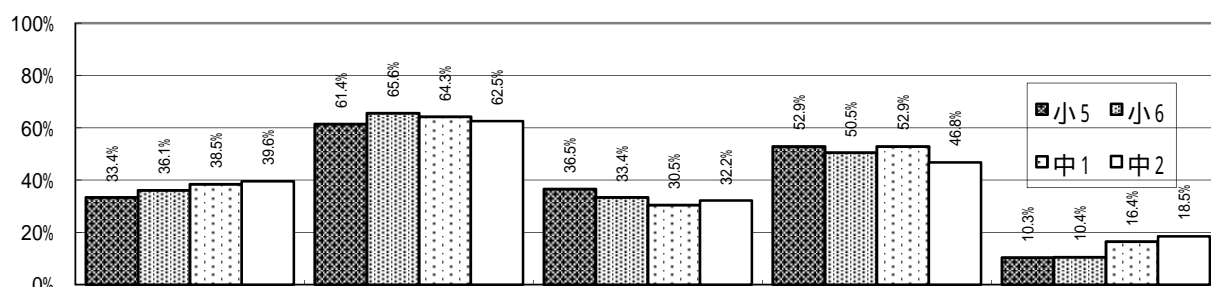
児童の7割以上、生徒の約6割が「授業がよくわかる」「だいたいわかる」ととらえており、昨年度より増加している。

「よくわかる」「だいたいわかる」を含めると、授業がわかるととらえている児童(小5・小6)の割合は、7割以上、生徒(中1・中2)は約6割であり、昨年度に比べて、それぞれ約1%程度増加した。一昨年度に比べると、「よくわかる」「だいたいわかる」の割合は、全体として5%程度増加しており、特に小5では6%、中2では7%と大きく増加している。

この結果は、各教科で身に付ける力を明確にし、個々の学習状況を分析して、個に応じたきめ細かな指導を行ってきた成果があらわれてきたものと考えられる。今後は、分析に基づいた指導を継続し、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた児童生徒に対する、より一層きめ細かな指導を充実させることが必要である。また、授業がわからなくなる割合が中学校になると急増することから、学校段階間の円滑な接続に努め、特に中学1年生における丁寧な指導と個別の対応を充実させることが必要である。

## 7 授業の中でわからないことがあったら、どうすることが多いですか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
自分で調べる	33.4%	36.1%	38.5%	39.6%
友だちにたずねる	61.4%	65.6%	64.3%	62.5%
先生にたずねる	36.5%	33.4%	30.5%	32.2%
家の人や塾の先生にたずねる	52.9%	50.5%	52.9%	46.8%
そのままにしておく	10.3%	10.4%	16.4%	18.5%



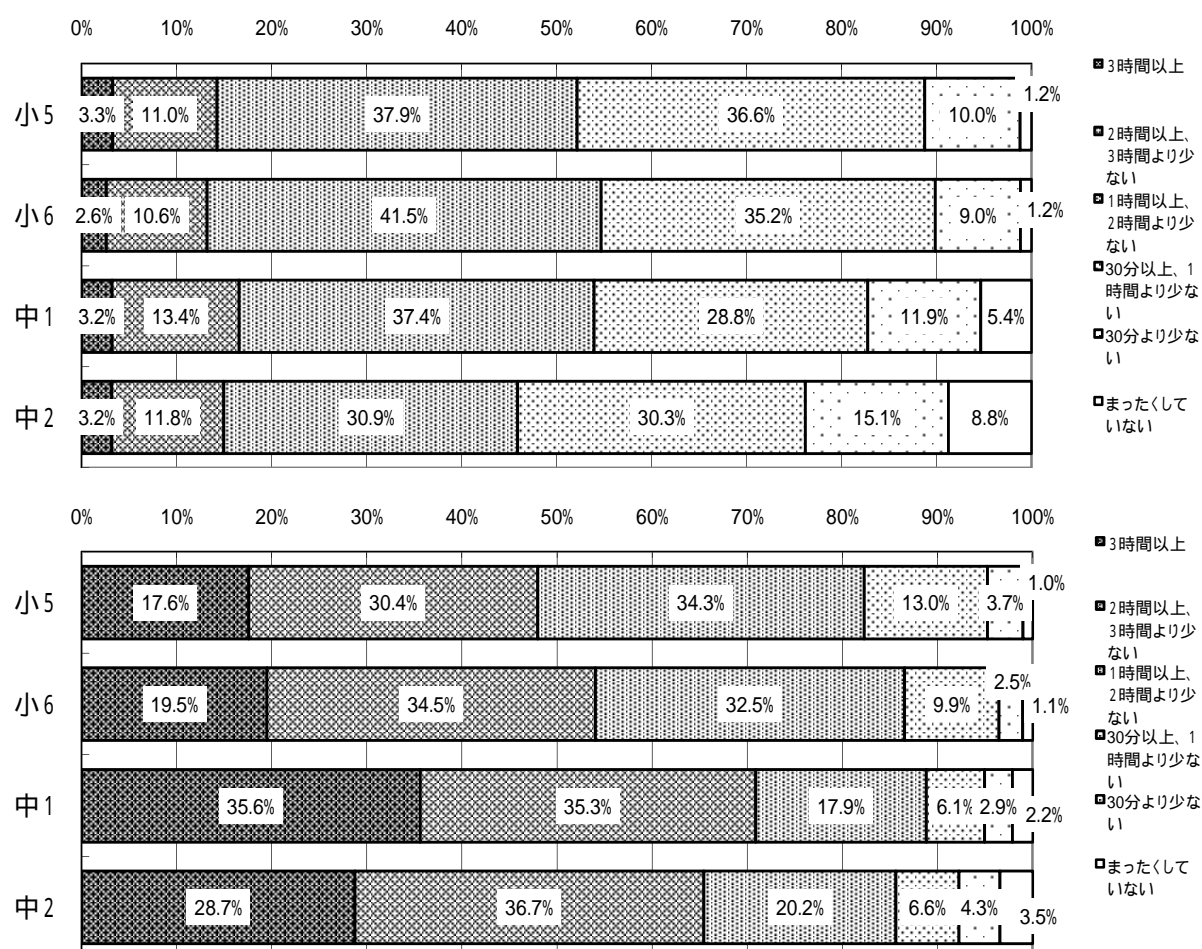
6割以上の児童生徒がわからないことがあったら「友だちにたずねる」。

わからないことがあったら、児童生徒の6割以上が「友だちにたずねる」と答えており、どの学年においても選択肢の中で最も大きな割合を占めている。仲間とともに学び合うこと、互いにわからないことを聞き合えることを大切に指導してきた成果であると考えられる。今後も、児童生徒が相互に信頼し支えあって生活できる好ましい人間関係が深まるよう、より一層の指導を充実させることが必要である。昨年度に比べて、「自分で調べる」と答えた児童生徒は同程度であるのに対し、「家の人や塾の先生にたずねる」と答えた児童生徒の割合が2%程度増加している。また、「先生にたずねる」と答えた児童生徒が2%程度減少している。

今後は、児童生徒一人一人に調べ方や学び方を身に付けさせるとともに、疑問に思ったことを自ら調べ、考えるよう問題解決学習を充実させることが重要である。また、児童生徒が気楽に「先生にたずねる」ことができ

## 8 平日に家に帰ってからどのくらい勉強しますか。

学習塾や家庭教師を含まない	小5年	小6年	中1年	中2年
3時間以上	3.3%	2.6%	3.2%	3.2%
2時間以上、3時間より少ない	11.0%	10.6%	13.4%	11.8%
1時間以上、2時間より少ない	37.9%	41.5%	37.4%	30.9%
30分以上、1時間より少ない	36.6%	35.2%	28.8%	30.3%
30分より少ない	10.0%	9.0%	11.9%	15.1%
まったくしていない	1.2%	1.2%	5.4%	8.8%
学習塾や家庭教師を含む	小5年	小6年	中1年	中2年
3時間以上	17.6%	19.5%	35.6%	28.7%
2時間以上、3時間より少ない	30.4%	34.5%	35.3%	36.7%
1時間以上、2時間より少ない	34.3%	32.5%	17.9%	20.2%
30分以上、1時間より少ない	13.0%	9.9%	6.1%	6.6%
30分より少ない	3.7%	2.5%	2.9%	4.3%
まったくしていない	1.0%	1.1%	2.2%	3.5%



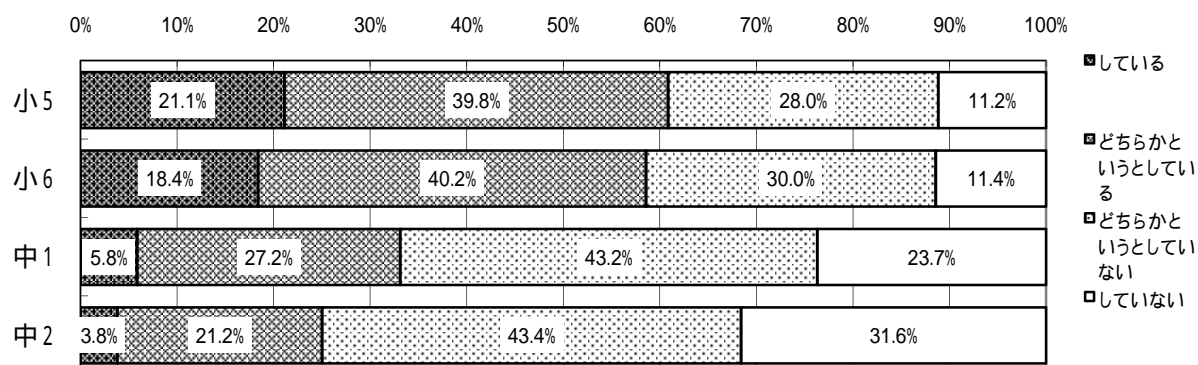
**児童生徒の1～2割が2時間以上の家庭学習を行っている。30分未満の児童生徒は減少している。**

学習塾や家庭教師を含まない家庭学習時間を見ると、「1時間以上」がどの学年も5割程度である。また、「2時間以上」が、すべての学年で1割を超え、昨年度と同程度である。家庭学習の時間が「30分未満」「まったくしていない」と答えた児童生徒は、学年によって差はあるが1割から2割程度であり、昨年度に比べ、すべての学年において1～2%減少していることから、家庭学習の習慣が身に付きつつあると考えられる。

今後は、学年が進むにつれて、「塾や家庭教師による学習」が増えてきている状況を踏まえつつ、家庭学習の方法などを丁寧に指導し、家庭学習の習慣化を図るとともに、家庭と協力しながら、一人一人の児童生徒への個別指導を充実させることが必要である。

## 9 ふだんから、計画を立てて家庭での勉強をしていますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
している	21.1%	18.4%	5.8%	3.8%
どちらかというとしている	39.8%	40.2%	27.2%	21.2%
どちらかというとしていない	28.0%	30.0%	43.2%	43.4%
していない	11.2%	11.4%	23.7%	31.6%



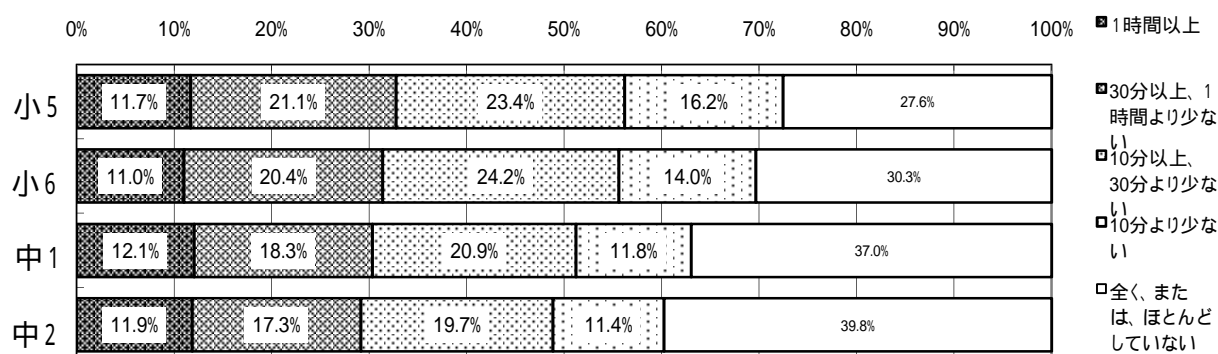
5割程度の児童、2～3割程度の生徒が計画的な学習をしており、昨年度より増加傾向である。

「している」「どちらかというとしている」を含むと、児童(小5・小6)の6割は計画を立てて学習をしているが、生徒(中1・中2)は3割程度となり、学年が進むにつれて減少している。また、「計画を立てて学習していない」と答える児童が1割、生徒が3割程度いる。しかし、昨年度に比べて、「している」「どちらかというとしている」と答えた児童が4%、生徒が1%程度増えている。また、中学校では「計画を立てて学習していない」と答える生徒が、1～2%程度減少している。

この結果は、自己の目標やめあてを設定させて、勉強する内容を明確にして計画的に学習するよう指導してきた成果であり、その勉強を自己評価できるように努めてきたものによると考えられる。今後も、自己評価による学習の改善を継続して行っていくことが大切である。また、計画的な学習ができていない割合は、中学生になると低くなっている現状を踏まえ、中学校においては、生徒たちが自分で自分の目標をさだめ、見通しをもって学習を行えるよう、学校全体として、適切な家庭学習の在り方を工夫していくとともに、生徒一人一人に応じてきめ細かな指導を充実させていく必要がある。

## 10 家で、1日にだいたいどのくらい読書を読みますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
1時間以上	11.7%	11.0%	12.1%	11.9%
30分以上、1時間より少ない	21.1%	20.4%	18.3%	17.3%
10分以上、30分より少ない	23.4%	24.2%	20.9%	19.7%
10分より少ない	16.2%	14.0%	11.8%	11.4%
全く、または、ほとんどしていない	27.6%	30.3%	37.0%	39.8%



3割程度の児童生徒は「1日30分以上」の読書をしており、昨年度に比べ増加傾向である。

全ての学年で、1割程度の児童生徒が「1時間以上読書」し、3割程度の児童(小5・小6)、生徒(中1・中2)が「1日30分以上」の読書をしている。また、昨年度に比べて、「1日30分以上」の読書をしている児童生徒は1～3%程度の増加傾向である。また、「全くまたは、ほとんどしていない」は児童で3割、生徒で4割を下回り、昨年度に比べて、どの学年も3～6%減少している。

これは、各学校において、発達段階や学年段階に応じて良書に親しむことができるように計画的・意図的な読書指導がなされたこと、読書に対する意欲を高めている結果である。今後も、教科・学級・総合的な学習の時間などに